

■ 河合塾テキスト「高3 共通テスト対策地理〈2025 2学期〉」演習問題 解説 ■

【第21講（第8講）】

解答番号	正解	解説	重要度
1	②	<p>a : ア。地点Dを流れる河川（オリノコ川）の流域は、赤道より北側に位置し、熱帯収束帯（赤道低圧帯）が北上する6～8月前後に雨季となる。世界の大河川は河川長が長く勾配が小さく、河口付近では雨季から1～2か月遅れて流量が増加するため、7～10月頃の流量が最大となっている。</p> <p>b : 少ない。地点Dを流れる河川の上流域は、熱帯収束帯が形成され降水量が非常に多い地域であるのに対し、地点Eを流れる河川（サンフランシスコ）の上流域は、熱帯収束帯が形成される地域から離れており降水量が比較的少ない地域であるため、年平均流量は地点Dを流れる河川よりも少ない。</p>	★★★
2	②	<p>水力：K。世界最大級のイタイプダムをはじめ、ブラジル高原などにも多くのダムが建設されているブラジルでの割合が高い。再生可能エネルギー：L。発展途上地域であるため、多くの国で割合が低い。ただし、コスタリカはエコツーリズムがさかんであるなど環境保全に注力しており、水力とともに再生可能エネルギーの割合が高い。火力：J。ラテンアメリカでは顕著な特徴はなく、残った選択肢として選ぶ。</p>	★★
3	④	<p>サ : bからa。従来はイギリスをはじめヨーロッパ諸国からの移民が多かったが、近年は距離的に近く経済的な結びつきを強めている中国、インド、フィリピンなどのアジア諸国からの移民が増加している。</p> <p>シ : Y。シドニー大都市圏は就業機会が多く海外からの移民割合が高いため、家庭では英語以外の移民の母語が使用される割合も高い。</p>	★★★